



△川に入って生き物を探します。みんな楽しそう!!

自然の中で生き物観察

保津川水辺の学校開催

7月30日、保津川の自然をより知ってもらおうと、「保津川水辺の学校」を開催。今年度から開講している「亀岡生き物大学」で学んでいる親子を加えた、合計約100人が参加しました。

参加者らは、地元の人や専門家から川の役割、怖さを学んだり、オタマジャクシや小魚などの生態を観察しました。京都学園大学の西信弘准教授が「『コオイムシ』の名前は子(卵)を背負って育てることに由来するんです」や「亀岡に多く生息している『スジマドジョウ』は、実は絶滅危惧種なんですよ」など、川に住む生き物のことを詳しく知ることができてよかったです」と話していました。

亀岡市では、今後も身近な自然を生かした体験活動や環境学習を開催し、自分たちの生活と生き物とのつながりや影響を学ぶことで、環境保全の必要性と自然を愛する心を育んでいきます。



△捕まえた生き物について、親子でしっかりと学びます

佐伯灯籠の長い歴史

人形浄瑠璃は秋の国文祭でも披露



△繊細な手つきで人形を操ります

8月14日、菟田野町と吉川町にまたがる旧佐伯郷の4社による出合い祭りで、佐伯灯籠」が行われました。五穀豊穰を祈る神事と、祖霊の冥福を祈る盆の灯籠行事が結びついた全国でも珍しい祭りです。平成21年3月には国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

また、佐伯灯籠に欠かせない人形浄瑠璃は江戸時代後期から上演されるようになりました。移動式の舞台である台



△第26回国民文化祭PR隊長まゆまわ

菟田野小学校5年生の桂愛実さんは「緊張することなく、練習通りできたので良かったです。人形遣

いも楽しいけど、語りの方が好き。10月の国文祭も頑張ります」と元気に話していました。亀岡の国民文化祭では10月30日、「民俗芸能の祭典」と題して、佐伯灯籠人形浄瑠璃や出雲風流花踊りなどの芸能や祭りが競演します。ぜひ、皆さんも会場でご覧ください。



△独特な語り口もしっかり練習してきました

第二百二十六回 亀岡の国民文化祭を知る⑤ 文化財めぐり

祭りのなかの動物たち
古くから人間と動物との関わりは深く、人々はさまざまな動物たちを神の使いとして神聖視してきました。例えば稲荷神社の狐、愛宕神社の猪などのように、亀岡祭の山鉾を見ると、見送りや胴幕などに「動物」をモチーフにしたものがたくさんあります。翁山や三輪山、八幡山には「鳳凰」、難波山には「麒麟」が配

られています。これらは、いずれも人間が想像によって生み出した動物で、平和な世が訪れる前触れを表す霊獣とされています。稲荷山の「虎」や高砂山の「蝙蝠」は共に中国の吉祥動物で、魔除けの意味があり、難波山や武内山の「鶴」は長寿への願いを表しています。山鉾の懸装品を留める金具には「蜻蛉」が象られています。これは前にしか進まず退かない「不転退」の精神を表し、勝ち虫と呼ばれる吉祥動物だからです。国民文化祭では、六斎念仏や伊勢大神楽の獅子舞の他、「蜻蛉(カマキリ)・龍」それぞれの名神社の天王祭舞楽にも出演していただきます。出演団体の出し物や展示などから動物の姿を探してもらおうと、また違った楽しみ方ができるのではないのでしょうか。



△カマキリの被り物を着けて舞う (山名神社・静岡県森町)